

「但馬地域ビジョン 2050」概要

I ビジョンの役割・展望年次 など

【役 割】

但馬の未来の姿を示し、その実現に向けて、但馬の住民、企業、行政などがともに但馬の地域づくりを積極的に進めていくための羅針盤である。

【展望年次】

21世紀の折り返しとなり、今の子どもたちが社会の中心として活躍する30年後の2050年とする。

【展 開】

住民、企業、行政がビジョンを共有し、未来づくりの取組を行うことで「地域ビジョン」を活かし、地域発展に繋げる。

【全県ビジョンとの関係】

全体の骨太な将来像である「全県ビジョン」の下、但馬地域の特性を踏まえ、地域住民が共有できる「但馬の未来の姿」と「めざす地域像」などを提示する。

II 地域の現状、ポテンシャル

【人口減少、少子・高齢化】

- 20.0万人(2000年) → 15.5万人(現在)
- 高い高齢化率(29.5%:2000年 → 37.2%:現在)
- 若者の流出(高校卒業後80%以上が但馬外へ)

【魅力的な食と世界に誇る観光】

- 一次産業:但馬牛、カニ、ホタルイカ、朝倉山椒 など多くの世界に誇る食資源
- 二次産業:豊岡鞆、レース用バイクパーツ製造など多数のオンリーワン企業
- 三次産業:城崎・湯村など多くの温泉、海水浴とスキー、国内外で高い評価を受ける多彩な観光資源

【交通網の整備進展】

- 高速道路網の整備進展(北近畿豊岡、山陰近畿自動車道)
- コウノトリ但馬空港の利便性向上(新型航空機の導入)

【人柄・住民意識】

- 心優しくて奥ゆかしい、地域活動へ積極的に参加
- 高い防災意識、ゴミの分別など高いリサイクル意識
- 反面、地域へのシビックプライドはやや低い など

【地域のポテンシャル、未来につながる新たな動き】

- 豊かな自然 ○ユネスコ山陰海岸ジオパーク
- 3つの日本遺産(銀の馬車道鉱石の道、麒麟獅子舞 等)
- 日本農業遺産(但馬牛システム) ○コウノトリ野生復帰
- 芸術文化観光専門職大学開学 ○豊岡演劇祭の開催 など

III 2050年 但馬の未来の姿

つながる、**たからじま** ～みんなで創る^{つく} ワクワク但馬～

「**たからじま**」→「但馬から(未来へ・世界へ)発信する」
「但馬カラー(色・らしさ)を大切にする」の想いを込めて

IV めざす5つの地域像 と 実現に向けた大切な視点

【I】世界に誇る魅力を継承し、世界に輝く新たな魅力を創造する地域

- 豊かな自然・食など但馬の魅力強化と次代への継承
自然や但馬牛などの但馬らしい地域資源を再発見・発展させ次代に継承する。
- 地域住民と来訪者が共に楽しむ新たな地域の魅力の創造
誰もがわくわくする体験など世界の中で輝きを放つ独自の地域の魅力を創造する。

【II】垣根を越えた新たな人との交流・つながりを実現する地域

- 新たな交流の促進による地域の活力や持続性の向上
年齢や居住地などを越えた新たな交流・関係を構築し地域の活力や持続性を高める。
- 新技術による魅力発信強化と国内外との新たな交流の促進
ICTの活用などにより国内外の人と物理的な距離を超えて、新たな交流を広げる。

【III】多様性を認め合い、誰もが輝き夢の実現にチャレンジできる地域

- 個性が尊重され、誰もが多様性に富む暮らしを楽しみ輝ける地域
多様性を受け入れ、多様であることを楽しみ、誰もが活躍できる地域をつくる。
- 夢をかなえるフロンティア但馬の実現
誰かのチャレンジを後押しし、支える仕組みを地域で整え、夢を叶えたい人が集まる。

【IV】次代を担う若者や子どもたちがイキイキ育ち暮らす地域

- 自ら活躍する場があり、楽しさを実感できる地域
学びや進学などの選択肢に恵まれ、自分らしく輝いて生きる楽しさを実感出来る。
- 子育てを地域や社会で支える子育てに優しい地域
家庭内の役割の見直し、保育や小児医療の充実など子育てに優しい但馬を実現する。

【V】生活環境が充実した暮らしやすい地域

- 発展を支える社会インフラの整備
充実した医療・福祉サービスの提供など住む人々が暮らしやすい生活基盤を整える。
- 安全・安心に暮らせる基盤の整備
新たな感染症や未知のリスクなどに対応できる基盤を整える。

V ビジョン実現に向けて

【各セクターの連携・協力】

- 住民・地域団体、企業、行政が自ら何が出来るかを考え、互いに連携・協力しながらビジョン実現に向けて取り組む。
(各セクターが取り組めることをアイデア案として記載)
- 住民・地域団体
 - ・住民が自ら但馬の自然を知り、体験し、満喫する
 - ・ICT活用が苦手な人に教えあう環境をつくる 等
 - 企業
 - ・世界を意識した新規ビジネスを立ち上げる
 - ・社員の子育て支援を充実する 等
 - 行政
 - ・地域内外を問わず地域の魅力発信を強化する
 - ・シビックプライドを醸成する 等

【実現に向けた仕組みづくり】

- ①実行プログラムの策定
「但馬地域ビジョン2050」の毎年の実行プログラムとして「地域戦略プログラム(仮称)」を策定。
- ②地域ビジョンプロジェクト(仮称)の推進
実現に向けたプロジェクトを生み出す仕掛けとして、地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる会議体を設置。
- ③対話と学びの場づくり
 - 対話の場づくり
県民が地域の未来を語り合う場の設置や若者がビジョンを素材に地域を学び、議論し、実践する場づくりを高校・大学等と連携して進める。
 - 学びの場づくり
住民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な学びの場づくりを支援。
 - 取組の情報発信
多様な媒体を用いてビジョンの実現に向けた取組の情報をわかりやすい形で発信します。
- ④推進状況の見える化
 - 毎年度の点検評価(但馬力指標の改訂)
5つの地域像に応じた但馬力指標に改訂し、新たなビジョンの進捗状況を取りまとめて公表。
 - 柔軟な対応
社会情勢の変化などに応じて、地域ビジョンを柔軟に見直し。